

鉋の薄削り。

それは、

日本の木工技術の
基礎であり極み。

鉋屑は本来、仕事の副産物ですが、
大の大人を夢中にさせる奥深さがあります。
その厚みわずか数ミクロン(1/1000mm)という極限に達するには、
研ぎや台の調整など数々の習練と工夫を要し、
いわば技の結晶のようなものなのです。

削るら会


kezuroukai.jp



薄い鉋くずは、 材木がきれいに仕上がった証

薄削りで仕上げられた材木の木肌には、
艶やかな光沢があります。それは、
見た目に美しく手触りがいいだけでなく、
水をはじき汚れにくいので、
家具や家は丈夫で長持ちするのです。

日本の伝統的な木造建築に、木の地肌を
そのまま使う白木造が多くみられるのは
鉋の技術があればこそ。

また、白木には適度な吸湿性があり、
空間の湿度調整の役目も果たしています。
鉋の薄削りの技が、木の力を最大限に引き出し、
心地よい空間や生活道具をつくっているのです。

